

### 【期待される役割】

紫波町の東部地区（彦部、佐比内、赤沢、長岡地区）は北上川の東側、北上高地のふもとに広がるのどかな田園・山村風景が残る地域です。丘陵地帯を活かした果樹栽培や畑作が盛んで、町の特産品であるリンゴやブドウなどの産地として知られています。

町は、令和4年3月末に閉校した元長岡小学校を舞台に、町と株式会社マザー・オガール地方創生アカデミーとの公民連携事業として、産業振興と人材育成を柱とした「ノウルプロジェクト」を進めています。地域資源を活用した東部地区の新たな拠点の創出により、持続可能な「農ある暮らし」を目指すプロジェクトです。かつて子どもたちの声がかどまし、地域の人々が出会い、交流するきっかけの場であった小学校が同じく人と人が出会い、つながる場（ハブ）となることを目指しています。

都市部や市街地エリアにはない、農村エリアならではの持続可能な「農ある暮らし」の文化をつくることは、人口減少が進む東部地区が、町が目指す町の将来像「暮らし心地のよいまち」の実現のために効果的であると考えています。東部地区を起点として活動する移住コーディネーターには、前述したような東部地区にある様々な資源を活用し、東部地区を訪れた人が移住したい、暮らしたいと感じてもらえるような「農ある暮らし」の体現と発信をするとともに、移住希望者と地域住民とのハブとなって地域に入り込み、コミュニティを新しく紡いでいくための支援をする役割を期待しています。

### 【具体的な業務内容】

#### ■人と人を農村というフィールドを活かしてつなぐ

・東部地区にある「農ある暮らし」を可視化し、東部地区の魅力とともに発信することで訪れた人が「また来たい」「ここで暮らしたい」と思えるような、温かく開かれた土壌をつくり、そこに集まる人々と地域住民、または移住者同士を引き合わせ、新しいつながりを創出する。

移住者が地域にスムーズに馴染めるよう、地域行事への紹介やキーマンとの引き合わせなど、「つなぐ」ことを重視し、伴走する。

#### （想定される業務例）

上記業務を達成するために、想定される事業例です。

#### ○「農ある暮らし」の体現と魅力発信

・長岡を中心とした東部地域の日常や、農の魅力を発信する。

・地域住民と移住者が共に楽しめるワークショップや、関係人口を増やすためのイベントを企画・運営する。

#### ○移住・定住コンサルティングと空き家活用

移住希望者に対する相談対応の窓口となり、地域内の空き家情報の収集や、希望者のライフスタイルに合わせた住まい・暮らしの提案、マッチングを行う。